

ウムチョ ムウイーザ通信 No. 3

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。



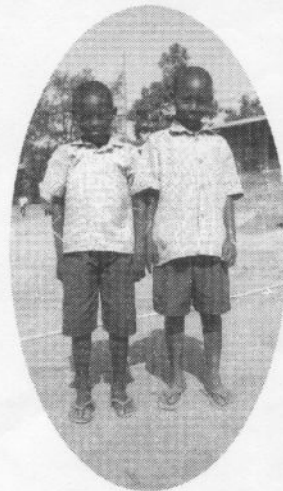
ルワンダ キガリ市 2003. 3. 1

こんにちは。いつもわたしたちのために、愛の心で助けてくださるお友だちのみなさん、ありがとうございます。私たちの学校は大きくなり、今は6教室と1職員室があります。

ここで、素晴らしい先生たちがとても良く教えてくださるので、私たちは良い成績をめざして、努力しています。

心から感謝、ありがとうございます。

トウイシメ・ロベール君(写真 左・14歳)の手紙の抜粋です。彼は、ストリートチルドレンでしたが、学校に入学して2年目で音楽も大好きになりました。



ルイズの兄、チャールズより

ウムチョ ムウイーザ(良い文化学園)の母体ADESOC(社会・文化・経済発展をめざす協会)は、1991年6月に発足しました。その後、悲惨な事件によって、ADESOCの全分野の発展に重大な結果を及ぼし、国民生活に多大な影響を与えました。

ADESOCには、三つの軸があります。

1. 総合学校の創設〔教育は平和と発展の鍵〕
2. 識字教育と成人教育の継続教育
3. 手工業と専門家の向上

「ルワンダの教育を考える会」の発足によって、1999年、学校建設がキガリで始まりました。2003年現在、6教室が完成し、5人の教師と2人のアシスタントが、175人の生徒の教育を担当しています。今年の9月には、生徒数240名の予定です。

今後の希望は、学校の敷地内に養鶏場、兎飼育場を造る計画(「家畜の飼育による自立支援事業」)を考えています。この計画により、バランスある食生活と病気の予防、健康と学校教育の改善、生徒の親が配偶者をなくし一人であっても仕事を持つことによる生活レベルの改善、他の子供たちに対する影響の拡大によるストリート・チルドレンの減少等に役立つと考えられます。

この学校が魅力となって、1997年、この周辺は片田舎であったのが、現在、町に変貌しつつあります。

ルワンダは第2の故国

KOMERA代表 和喜田 弥生

子どもの頃から動物が大好きで、中高校生になった頃にはアフリカ行きを夢見ていた。看護師になって3年後、念願のアフリカ行きの切符を手に入れた。青年海外協力隊として派遣された国は、ルワンダ。

2年間の協力隊活動予定が、内乱により、1年半で帰国し、私の隊員生活は終了した。1994年の大虐殺から3年後、お友達を探す目的でARCのスタッフと再訪。その際初めてマリールイズと出会った。約3ヶ月の滞在後、KOMERAを設立。KOMERAとはルワンダ語で『頑張れ』の意。「お互いに頑張って生きていきましょう。」との願いを込めてつけた。

隊員時代を含め、ルワンダへは4回行ったが、キガリ空港に降り立つといつも懐かしさで、まるで故郷に帰省したときの感覚を味わう。私にとってルワンダは第2の故国だ。

現在も3交代の看護師をしているため、大きな活動は出来ないけれど、今の自分にできる小さな活動で、故国ルワンダを応援したいと思っている。

2月に、愛媛で、「第2回アフリカンチャリティーコンサート」を開催し、約50万円を「ルワンダの教育を考える会」を経由し、ADESOCへ届けてもらった。コンサートは盛況で、新聞社も大きく取り上げてくれた。ご来場された方々からは、「とってもよかった。」「来年もやってね。」などのコメントをいただいた。

来年のことはわからないけれど、これからも、今の自分に出来る小さなことを少しずつやっていこうと思っている。今回のコンサートは、無理し過ぎちゃった(笑)ので、来年は細々とADESOCの子どもたちを見守っていきたい。

ルワンダ人のマリールイズの先祖は日本人で、日本人の私の先祖がルワンダ人だったのかもしれない。



愛媛県松山市須賀町2-37-306 KOMERA代表 和喜田 弥生
<http://homepage2.nifty.com/komera-komera/index.html>

アフリカンドラム&ルワンダ料理

会員(福島県須賀川市在住) 五十嵐 喜美子

私は、ルワンダの教育を考える会の会員です。

「教育は、平和と発展の鍵」という言葉に魅せられて、世界の子供達皆平等という考えから、私たちにも何か出来ないものかと疑問と不安を抱きつつ、ルワンダのお料理を食べながらコンサートを聞いていただくという計画を立てました。これが初めての試みなので、何をどうすればいいのか、思考錯誤からのスタートでした。ルワンダといえば、アフリカというイメージから、太鼓をとり入れたコンサートをということで、ムクナさんを招いてのコンサートを企画しました。そして、お料理は、ルイズさんの指導のもと、ルワンダのお料理を4品目、会員の皆様の協力を得ながら楽しく作ることとなりました。

平成14年12月15日、三春町のハーブガーデンで、「アフリカンドラム&ルワンダ料理」というテーマで、コンサートを開催しました。70名のお客さんとともに会員の方々も楽しいひとときを過ごすことが出来ました。会場内では、太鼓をたたきながらのムクナさんの声とともに皆さんが踊っていました。また、トマトをベースにしたそれぞれの素材を活かしたルワンダ料理も好評でした。その売上げの10万円をルワンダの学校のためにと協力できたことはとてもうれしく思います。そして将来、ルワンダの子供達ひとりひとりが、教育を受けることができるようにと願うばかりです。

ルワンダの子供たちの教育そして学校建設への協力として、何をどうすればいいのかという不安からのスタートでしたが、会員の皆さん方のご協力のもとに、盛大にコンサートを終えることができ、感謝いたします。

ルワンダの家庭料理

☆ソース ド ビアンド のつくりかた☆

- (1) 牛肉は、一口大の角切りにする。
- (2) 玉ネギは、半分に切り、スライスする。
トマトは、種を除き、サイの目に切る。
- (3) 浅鍋にサラダ油を熱し、牛肉の表面の色が変わるまで炒める。
- (4) スライスした玉ネギを(3)に加え、更に炒める。
- (5) 玉ネギがしんなりし、甘味が出たら、
トマトを加え、塩で味を整え、
中火にし、焦げつかないように木ベラで
混ぜながら、20~30分、トロリと
なるまで、じっくり煮込む。

横浜市青葉国際交流ラウンジにて

本会の斎藤照子さんの取り組みにより横浜市青葉国際交流ラウンジにてルイズの講演を開催することができました。

～横浜市青葉国際交流ラウンジのホームページより～

日時 2003.3.1 (土) 午後2時

ルワンダからごあいさつ



照子さんとルイズ

マリールイズさんの実体験にもとづく素晴らしいお話に聞き入った2時間でした。

ルワンダは赤道に近い国ですが高地にあるため大変温暖で、1日の気温は10℃から25℃で1年中変わりません。緑が多く、「アフリカのスイス」とも言われていたそうです。

ところが、大変残念なことに、1994年に内戦が勃発、ルイズさんは子供たちを連れ必死の逃亡で、隣国ザイールの難民キャンプへ逃れました。そこで海外協力隊の方に学んだ日本語のおかげで、教育の大切さを実感いたします。

彼女が日本で学んだ古き良き異文化の話、他に類の無い日本の平和の現状への驚き。現在は福島県に住みながらルワンダの

子ども達のために学校を作ることに力を注いでいるルイズさんはおっしゃいます。

「私たちにとって無駄な勉強は何もない。財産は金庫にしまうのではなく、自分の頭に入れなさい。」

ユーモアを交えながら平和であることの素晴らしさを訴えたお話にたくさんの参加者(約60名)は感激いたしました。心が洗われる感動のひとつでした。

ふくしま地球市民フェスティバル

JICA・県国際交流協会・ふぐネットの共催による「ふくしま地球市民フェスティバル」が、3月2日、郡山市のビッグパレットで開催され、国際交流などに携わっている県内外のNGO延べ60団体が出展して、活動の様子、外国の民族料理の紹介等を行いました。

本会からは、ルイズと飯高が、企画の段階から実行委員として参加し、昨年の10月から会議を重ね、イベント全体の内容の検討や講演者の人選、広報活動としてマスコミ各社への訪問、テレビ・ラジオへの出演など、関係各方面と協力して積極的に運営に携わってきました。

当日は、広報の甲斐があつて、目標を大きく上回る4,000名の来場者があり、それぞれ地球規模の交流の様子に関心を深めてくださったようです。

本会も、ブースでは、学校建設の様子などの活動を紹介し、料理コーナーでは、約100人分のルワンダ料理を好評のうちに味わっていただきました。(12時前に完売といううれしい誤算もありました!!)

JICAや県国際課の皆さんからは、展示内容や接客態度など、未来博の頃から比べると格段の成長が見られたとお褒めの言葉をいただきました。ふぐネットと県国際交流協会主催のマネジメント講座やプレゼンテーション講座への参加により、会としても、会員個人個人としても、かなりスキルアップされた賜物と思われます。

一日中、笑顔で頑張ってくれた高校生ボランティアの皆さん、ステキなお菓子を手作りして売上げアップに協力してくださった福島三小のお母さん方、事前の準備を積み重ね料理を担当してくださった方々、例会の時に民芸品の下準備をしてくださった方々、当日お手伝いしてくださった方々等、多数の皆さんのご協力により、無事出展することができました。本当にありがとうございました。

来年2004年も3月7日に開催が決まっています。よろしくお願いします。

ふぐネットとは… 「ふくしま Global citizen's ネットワーク」の略。

未来博の国際交流ゾーンで出会った国際交流・協力団体がゆるやかな連体をモットーに、お互いのノウハウと経験を出し合って、協力し、研鑽し合い、相互に成長していこうというネットワークです。

会員の総意により選ばれた初代代表は、本会のルイズさんです。

ルワンダフル

クリスマス☆キャンペーンの報告

おかげさまで、26件、約30万円の

寄付募金等をいただきました。

ありがとうございます。



一食平和基金からの助成金

一面のチャールズさんからの手紙にあり
ました、「家畜の飼育による自立支援事業」
に対して、87万円の助成をいただくこと
になりました。

子ども達の栄養補給、現金収入を得ること
による親の自立支援など、今後の「ウム
チヨムウイーザ学園」の発展に大きな弾み
がつけました。

今後の予定

4月例会：4月12日（土）午後1時30分
県国際交流協会

総 会：5月10日（土）午後1時30分～
福島文化幼稚園

・1年間の活動報告と今後の予定を
話し合いたいと思います。多数の
参加をお願いします。

チャリティーコンサート決定！！

開催日：10月13日（月）
会 場：福島県文化センター

南こうせつ・イルカ・小室等・高田渡
というビックなアーティストが、ルワンダ
応援に駆けつけてくださいます。
収益金で、スクールバスをルワンダに送る
予定です。

6月頃には、「ルワンダの教育を考える会」
の先行予約を受け付けます。

良いお席はお早めに！

《かんたんなルワンダ語》

Aさん ムラホ？ （こんにちは）

Bさん ムラホ ネザ （こんにちは）

イエーゴ （はい）



Aさん アマクルキ？ （ごきげんいかがですか？）

Bさん ニ メーザ （元気です）

◇ 会費は下記へお願いします ◇

正会員 5,000円 賛助会員 10,000円

郵便振込口座：02290-0-97126

加 入 者 名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会

現在会員数 73名



編集後記

吾妻連峰は、また、雪の冠を
かぶっています。陽射しは、
段々と暖かさを増しています。
春がやってきました。
ニユースが、残念ながら、起
こってしまった戦争を報じてい
る今、世界中の人々は、「平和」
を強く心に願っていることとし
よう。
今年になって、初めての発行
です。今後も、会のバワフルな
活動の様子を、皆様にお知らせ
していきたいと思っています。



ルワンダの教育を考える会

理事長 高 橋 啓 子
副理事長 カンベンガ・マリールイズ

〒960-0466 福島県伊達郡伊達町字根岸5-11

TEL/FAX：024-583-5345

e-mail：umuco@smail.plala.or.jp

